令和5年度　アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	403architecture [dajiba] / 椅子の場所は決めることができる			
	会期	2023/7/29－9/24　50日		開館日数	50 日間
	会場（ギャラリー）	ギャラリー1		実施方式	01自主企画・単独方式
	観覧料	一般　－		出品点数	1点
		割引　－			
	担当者	学芸：高橋由佳、庭山貴裕			
	目的（一覧表）	急速に発展する前橋の街なかを、建築家の視点を通して考察するリサーチプロジェクト、並びに成果展示を実施する。本プロジェクトを通して、アーツ前橋が開館時から大切にしている街なかとの繋がりを強化すると同時に、10周年展に向けた新たな関係性を構築する。			
	キーワード	403architecture [dajiba]　リサーチプロジェクト　建築実践　固有の風景　街なか連携			
	他団体との連携（共催、協力等）	協力：天笠恵子、岩田桃、大橋慶人、大矢咲空、岡正己、岡田友大、緒方秀臣、木暮伸也、岸篤美、北原雄一郎、黒田桂子、小泉亙、小林富美江、木暮勇斗、下田結菜、竹内躍人、橋本薫、蓮池光洋、蓮池俊光、萩原朔美、日詰有美、澤井雷作、二口圭介、須藤義則、三橋一仁、村井美予、山本卓哉、山本龍、矢村功、八木隆行、我妻浩之			
	参加作家	403architecture [dajiba]			
	関連イベント	①作家による特別レクチャー　8/26			
		②作家によるプロジェクト報告会及びギャラリーツアー 8/26			
		③ストリートファニチャーエキシビションオンラインディスカッション　9/4			

①インプット（投入）・・・用いた資源　②プロセス（活動）・・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録	
						3,000 部		
	収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	観覧料	助成金	他
	予算		3,000,000 円		750 円			
	決算見込		3,008,600 円		750 円			
	差額		8,600 円		－			
	予算／決算		100.3%		100.1%			
	会期一日あたり(決算)	0 円	60,172 円	－	－	0 円	0 円	0 円

②内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	作家による滞在リサーチを通して、前橋固有の風景を探り、その風景を街の方々から借りた椅子を用いて美術館内に表現する。また、椅子の移動を建築行為と捉え、「建てる」以上の建築の可能性に挑戦する。
	〔②活動〕主な取組（手段）の結果・メディア等広報実績・新たな試み　図録　関連イベント　助成　など　●指標　来館者反応　手ごたえ　アンケート	・広報戦略・新たな試み（転記）	1. 街の方々から借りた椅子を作品として展示 2. 作家による特別レクチャーの実施 3. 市内の関連イベントとの協業 4. 椅子所有者のタグ付けを行ったインスタグラム投稿
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・「新建築住宅特集」内での展覧会レポート ・上毛新聞 ・ARTnews Japan「今週末にみたいアートイベントTOP5」
		新たな試みの実績	・アート作品に関心の薄い街の方々の来館を促すことができた ・特別レクチャーに合わせて、東京や京都から建築家や建築リサーチャーが来館 ・作家の活動拠点である浜松と前橋の現在の比較を通じて、前橋の都市開発や街の未来について、若手建築家や学生たちと有益な議論を行うことができた

③結果	入場者数(参考数値) 上段：人数（人） 下段：割合（%） ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）	
											4,009	4,009	80	
	有料観覧者率 0.0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%			

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	4,000 人	4,009 人	100.2 %	
	展覧会満足度	%	75.2 %	pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合（無回答を除く）

令和5年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

③結果	事業名	403architecture [dajiba] / 椅子の場所は決めることができる	
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)	
④成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	近隣住民、市外の建築愛好家
		成果	椅子を貸与してくださった方々が、展覧会に対する感想とともにSNSやブログ等に投稿してくれた。また、建築・街づくり・デザインに関わる他県からの来館者からも、前橋の街への印象とともに本展への感想が寄せられた。アンケートでは「前橋の活性化がわかりやすく紹介されていた。実際にお店にも行ってきた」といった感想が寄せられ、椅子を通して前橋の人々の活動を表現する本展の趣旨に一定の理解を得られたと思われる。
		ねらい1(転記)	1. 街なかとの関係性強化
		成果	制作プロセスを通して、40人以上の近隣住民と対話を行い、プロジェクトへの協力を得ることができた。また、街の方々と交流する中で、再出発するアーツ前橋の今後の活動について報告することができた。本プロジェクトを通して生まれた関係性によって、10周年記念展「ニューホライズン」における会場利用の協力も得ることができた。
		ねらい2(転記)	2. 街とともにある美術館としてのイメージ定着
		成果	街そのものの動きを美術館内に取り入れた本展は、アーツ前橋が今後も街とともにあることを表明する展覧会になったと考えられる。また、本展を通して強化された街との関係性を、次回の展覧会「ニューホライズン」に繋ぐことで、このイメージをさらに定着していくことができると考える。
		ねらい3(転記)	3. 新世代の建築実践への理解を深める
		成果	作家の活動拠点である浜松と前橋の現在の比較を通じて、前橋の都市開発や街の未来について、若手建築家や学生たちと有益な議論を行うことができた。また、展覧会を通して、地方都市がおかれる状況から生まれうる建築実践について、示唆することができた。
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	＜1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載＞ 1参加作家のその後の活動を評価　⇒　後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価　⇒　後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価　⇒　「ニューホライズン」展における会場協力やボランティアスタッフとして参加を得ることができた。 4. 事業の実施に伴う波及効果　⇒　同時開催のコレクション展とともに、アーツの再出発を近隣住民ならびにアート業界に発信することができた。 5. 地域資源の活用という点での効果　⇒　地域住民の物語を資源として展覧会を構成することができた。その結果、前橋初訪問の方々に「街歩きの出発点」として展覧会を楽しんで頂くことができた。 6. 意図せざる(思わぬ)効果　⇒　前橋視察にいらした建築・デザイン・街づくり関係の方々にご訪問頂けたこと。	
自己評価(担当者)	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　2.良い　3.普通　4.劣る	
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　3.普通　4.劣る	
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　3.普通　4.劣る	
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　3.普通　4.劣る	
	課題・改善点	ギャラリー1のみを会場とした展示としては支出が膨らんだ点は改善の余地があったと思われる。出展作家が3名から成る建築コレクティブであり、活動拠点が浜松であったため謝礼・交通費等が嵩んだ点が主な要因であったが、今後はこうした費用を含めて事前に検討・調整した上でより適切な予算執行を心がける。	
引継ぎ事項 (特記事項)			
コメント・意見		館長 副館長	コレクション展と同様、準備期間は非常に短かったが、短期間の中で、スタッフが地域の人々と対話し、街の人と美術館を繋ぐプロジェクトとして形にすることができたと思う。コレクション展と同時開催、無料展示エリアとして、プロジェクトに関わった方やまちなか回遊者の来場もあり、来館目標人数、満足度(75%)も好評であった。今後、企画する上で、街と美術館を繋ぐハブとしてのアーツ前橋の意識、企画に対するコスト意識も考えながら今後のプロジェクトに繋げていきたい。
		運営 評議会	

最終更新日:R5.9.28